

令和7年度学校評価

達成率 A:90%以上 B:70%~89% C:50%~69% D:49%以下
 ※自己評価の平均値は、達成率を数値化したもの。(A:4 B:3 C:2 D:1)

領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	方策・具体策	自己評価(平均値)	昨年度比較(±)	○成果 ■課題	関係者評価	意見・提言	
I 学校運営	1 学校は、学校教育目標達成に向けて適切な教育活動を行っている。	・児童一人一人の良さを認め、ほめて伸ばす。 ・たくましく生き抜く自立した人間を育成する。 ・人と人との繋がりを大切に、感動する心を育てる。	3.6	0.2	○小規模校で一人一人の負担が大きいところはあるが、よりよい学校を目指して職員で協力して学校運営ができた。 ○副担任制を取り入れたことで、負担の軽減につながった。 ○学校課題研究が学校運営の視点と深く関係しており、常に学校運営を意識した言動心がけることができています。	3.7	○小規模校だからこそ、目が行き届くのではないが、 ○忙しい中皆さん大変よくやっている。仕事とはいえ、職員室の雰囲気は悪い気がした。 ○自己評価は高く、児童・保護者アンケートの結果も先生方への評価は高い。目指す教育目標や教師像は達成できている。 ■副担任制は、全てのクラスではないようだが、公平なか。 ■児童の朝のテンションは低く、挨拶しても下を向いている。
	2 学校は「めざす学校像」に向けて、校務分掌等で組織的に対応を図っている。	・分掌主任として見通しとアイデアをもち、チームワークを発揮し、「チーム上北」として組織力を向上させる。	3.6	0.2			
	3 教員は、「めざす教師像」達成をめざしている。	・自分に厳しく、相手に優しくできる。信頼され、授業で勝負し頼られる教師として、自らの立ち居振る舞いを振り返る。	3.4	0			
	4 学校は、信頼の向上に努めるため、積極的にマナーアップの実践に取り組んでいる。	・あいさつ、丁寧な言葉づかいの率先垂範。	3.6	0.2			
II 学習指導	5 教員は、ICTを活用するなど児童がわかりやすい個に応じたきめ細やかな授業を行っている。	・クローズドブックを効果的に活用する。 ・誰でも活用できるスキルを身に付けさせるため、毎日活用する。	3.6	0.2	○学級担任が主となり、児童の学習面、生活面の把握を行い、支援が必要な児童については個別対応(保護者対応を含む)を行い管理職に報告するなど、共通理解を深める努力をしています。	3.7	○学習理解度に応じてクラス編制を行い、個人差に対応した学習指導に取り組んでいることを評価する。 ○勉強のことは先生に任せている。 ○単純に能力分けではなく、個別にきめ細やかな対応をいただけることはよい。 ○1年生の英語活動について、楽しそうにしていた。 ■少人数クラスでの振り分けは、本人・保護者ともに理解する上でのごとだと思うが、途中で変更しても問題はなにか。
	6 学校は、基礎基本の定着、学力向上を目指した教育を行っている。	・R-PCDAサイクルを意識した学習指導を行う。 ・主体的に対話的な深い学びに通じる授業実践をする。 ・読書の習慣を身に付ける。 ・UDの考え方を実践する。	3.6	0.3	○図書館では、図書支援員と協同してクイズやビンゴなどのイベントを開催し、貸出数を増やすことができた。 ■学級会については、折り合いの付け方を学ぶ機会が不十分なので、意図的に計画して、実施していきたい。		
	7 学校は、学習規律の確立を図る取組を行っている。	・共通理解、共通行動を徹底する。 ・どの教員でも同じ指導を行う。 ・生徒指導委員会での確認を怠らない。	3.4	0.2			
	8 学校は、話し合い活動の充実を図れるよう取り組んでいる。	・年間10以上の学級会 ・自分の意見を持つ力を育成する。 ・折り合いの付け方を学ぶ。 ・計画的に司会グループを体験させる。	3.1	0.2			
III 心の教育	9 学校は、児童が学校や地域であいさつができるよう指導に努めている。	・登校指導、一斉下校時の継続的指導を繰り返す。 ・教員から明るいあいさつをする。 ・児童会活動と連携する。 ・授業の開始、終了のあいさつを丁寧に指導する。	3.5	0.1	○ペア読書を取り入れた。読書のイベントや先生方のおすすめの本紹介を取り入れた。いい取り組みができた。 ○PBSの視点で自身の教育活動を振り返る機会が増えた。 ○PBSの研修は、推進される価値を感じる。 ○PBS研修等を実施し、少しずつだが、教職員の意識改革に繋がってきている。 ○褒める教育が心の教育有効であることを児童の姿から感じることができた。 ■図書室で、本をほとんど借りない児童が読書に親しむ機会が増えるような取り組みを検討する必要がある。	4	○PBSが先生方に浸透し児童にも影響していることを評価したい。全職員でPBSを実践していただきたい。 ○先生方に褒めたいところや出る。自分から進んで行動に移ることができている。 ○PBSは、子育ての基本である。教師が身に付けなければならない。期待している。 ■挨拶の大切さを教えてほしい。人付き合いの入り口なので。 ■じっとしてられない児童に読書を勧めるのは難しいが、想像力や他者への気遣い、我慢などを育むのに必要である。 ■本を読むと、語彙力や想像力、共感する力が高まると思う。折り合いのつけ方を学ぶ機会にも役立つと思うので、読書活動を積極的に行ってほしい。
	10 学校は、ほめる教育を念頭に置き、心の教育を推進している。	・1人1人の育成計画をもとに一人一人の児童の良さに着目し伸ばしていく。 ・全児童の支援を全教員で行う。児童に声かけたことは、必ず担任へ。良さをみつけていく。 ■児童自己肯定感を高めるために、本校学校課題研究として「PBS(ポジティブ行動支援)の実践」を取り上げ、児童の心の育成に繋げていく。	3.6	0.1			
	11 学校は、読書活動を計画的に取り入れ、推進している。	・ブック別の目標を設定する。 ・週末読書 ・暗唱課題に取り組む。	3.3	0.2			
IV 健康教育	12 学校は、児童の体力を向上させるための指導を行っている。	・ブック別の指導計画を立て、確実に技能を向上させる。 ・体育の授業、体育的活動の充実をする。 ・積極的な外遊び(子供も教員も) ・運動委員会の積極的な活動	3.6	0.1	○体育朝会の回数は減ったものの、休み時間を利用して短距離走や縄跳びに取り組んだり、サッカーゴールを設けて、外遊びをしたりする児童が増えたと感じた。 ■指導を丁寧に繰り返しているが、保護者の共通理解・意識の向上も高められるよう効果的と思う。運動・体力の基礎、基本が高まる運動の機会を多く取り入れたい。	3.7	○休み時間に外遊びをしている児童が多い。 ○確かにボール遊びや追いかけっこで走り回っている児童が増えた。先生も児童と一緒に走り回り、顔を合わせても挨拶を忘れずらい重心に上がっているほどである。 ○先生方の指導のもと、多くの児童が休み時間に外遊びを行い、体育の授業だけでは補えない体力づくりを行っている。
	13 学校は、「上平北小みんなのやくそく」が身に付くよう指導を行っている。	・いつでもまきりに戻って確認をする。 ・共通理解・共通行動の徹底。	3.3	-0.1			
V 生徒指導	14 学校は、いじめや不登校などの問題に迅速に対応し、適切に指導している。	・児童がいるときは、児童と共に行動することを徹底する。 ・★校長・教頭への報告を迅速に行う。記憶より記録。	3.8	0.6	○研修を通して、生徒指導上のトラブルが起きた時の対応について、共通理解が図れた。 ○いじめ等の対応について迅速に対応している。 ○組織で適切に対応している。アンケートの対応を丁寧にいった。 ■組織的に対応したが、解決までに時間を要したり、まだ解決できていなかったりするケースもある。	4	■いじめや不登校問題は、家庭教育や保護者の協力も必要である。保護者と連携し、対応してほしい。 ■最近では落ち着いているようだが、プランの取り合いをしたり、低学年の児童が乗りたくて待っているのいつまでも乗ったりしている児童が居られる。
	15 教員は、積極的な生徒指導を推進している。	・ユニバーサルデザインへの配慮をする。 ・まず、目を合わせてあいさつ。	3.7	0.1			
	16 学校は、施設設備の点検を定期的に行い安全な環境づくりに努めている。	・安心安全な環境を意識し教室等の整備を行う。 ・安全で清潔な教育環境	3.8	0.1			
VI 安全教育	17 学校は、個人情報の管理や会計事務等を適切に行っている。	・教材費は金融機関引落としをする。 ・現金は8時半までに書庫に保管し即日入金完了。	3.8	0.1	○外部の方とも協力して登下校の安全指導ができたこと考える。 ○下校時のトラブルがあるため、適時見守りしている。保護者にも必要に応じて見守りや迎え等協力を依頼している。 ■児童一人一人がもう少し安全に対する意識が高められるといいと感じる。 ■学校応援団については、教職員、保護者、地域に対してもう少し周知する必要があると考える。	4	■学校だけでなく、保護者も下校時の見守りを強化できるといい。 ■親も教師もない低学年の下校について、元気いっぱいの子どもの突発的な動きに不安を感じている。列を乱さず、走らない、ふざけないことの指導をしてほしい。 ■登下校のルールや児童の安全確保は保護者の役目でもある。保護者や地域の方と連携を図りたい。
	18 学校は、登下校の安全指導を積極的に行っている。	・登校指導、一斉下校、通学班会議、課題がある場合には臨時の会議を行い、安全についての意識をもたせる。	3.8	0.4			
	19 学校は、学校応援団等地域や保護者と連携した教育活動に取り組んでいる。	・学校応援団の派遣を計画的に行う。 ・北サポとの連携を図る。	3.8	0.5			
VII 家庭・地域との連携	20 学校は、学校だよりや学年だより、HP等教育活動を公開して説明責任を果たしている。	・各学年1か月に2回のHP更新をする。欠席の場合オンラインを用い、可能な限り授業の公開を行う。 ・学校だより等連絡メールにて配信する。 ・学校だよりの内容に「数値」を取り入れる。 ・音楽朝会の保護者公開を行う。	3.6	0.3	○家庭・地域と連携して教育活動にあつた。 ○家庭と連絡帳や電話、個別面談などで連携することができた。 ■学校の学年HPの更新について、積極的に行うことできる時期とそうでない時期とできてしまい、定期的な更新を行うことが難しかった。	3.8	○音楽朝会の公開は、短時間ではあるがとても感動する。 ○全体的に児童が家庭に学校内のことを話していること認識できた。 ○HPをよく拝見している。学校だよりの更新も早く助かる。 ○児童にとって、学校に来るのが楽しい場所になることを願っている。 ○自社会としても、見守りくらいではあるが、協力していきたい。 ■HPの写真は、もう少し情景が分かるようにするのは難しいだろうか。 ■学校は、園児・児童生徒の関わりを深めるためにより一層の交流を図り、地域としての教育力を高めたい。
	21 学校は、幼・保・小・中の連携を活かした教育活動に努めている。	・小1プロブレム、中1ギャップを最小限に抑える連携をする。 ・訪問を実施する。	3.6	0.3			